

堤防の向こう側

高知工科大学 工学部 社会システム工学科
1110355 三松元気

1. 背景

市街地から少し外れた川沿いにその場所はある。この場所は、堤防を軸とする動線が生む生活環境に合わせ、町並みが構成されている。すれ違うのがやつの幅しかない橋や、お互いの気配を感じながら気遣いあい、住民は堤防に寄り添うようにして生活をしている。堤防に沿うように形成された町並みは、この生活を象徴しているかのように見える。しかし、住宅が老朽化し、この町並みを維持することが困難になりつつある。そのほかにも、新しく建つ戸建住宅は、多様な表情を持つ町並みと反し、どれもが同じ表情をしており等間隔で並び、内部空間さえも均一化しつつある。

こうした背景を受けて、均一化された物からも多様で豊かな町並みや内部空間を提案できないかと思ったのが計画の動機である。

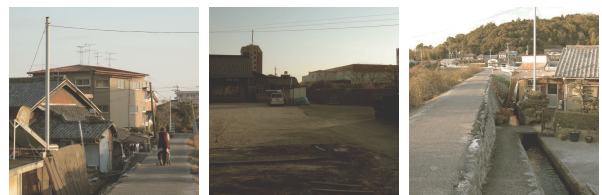
2. コンセプト

多様な表情を持つ町並を、現代に合わせ新しいルールで集合する住宅を提案する。住宅に、道としての機能を持たせ、庭を介して道路や街に開かれて行くつくりとする。本来閉鎖的になりがちな集合住宅を、通りがかかる人が気軽に立ち寄れるような、自己完結しない穏やかに街と繋がる集合住宅にするべきであると考え。お互いの気配を感じながら気遣いあい、周囲と独立していない環境で子供を育て、社会性を育むことに集まって住むことの意味があるのではないかと考えた。独立させながら繋ぐ多様な内部空間、奥行きとゆるやかな領域を生み出す小さなユニットの繋がりが住居の場を形成しながら街と穏やかな関係を築くことを試みる。

3. 敷地

敷地は、高知県香南市野市町東野に架かる歩道橋の周辺に設定する。敷地の西側に烏川が流れており、堤防に隣接している。周囲を、水路に囲まれおり、南側には農業用地が広がっている。しかし、近年、新築の建て売り住宅が並び、現在も新しい住宅が建設され、町の表情を一変しようとしている。

本敷地は、現在老朽化した住宅があるほか駐車場として利用されている。

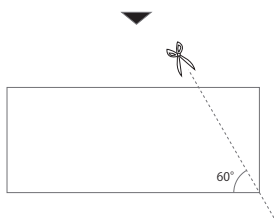


敷地写真

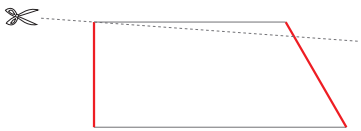
4. ダイアグラム



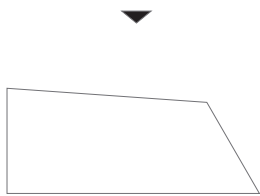
6m×25m の平面



多様な繋がりを持たすため
角度をつける

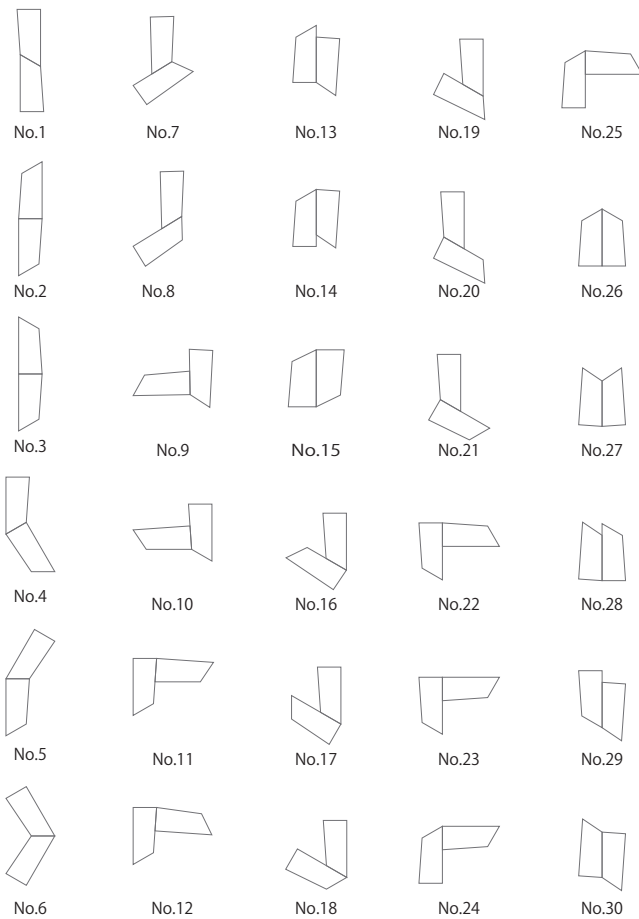


繋ぐするため両辺を同じ長
さにする



できた平面を繋げユニットを
つくる。

5. ユニットモデル

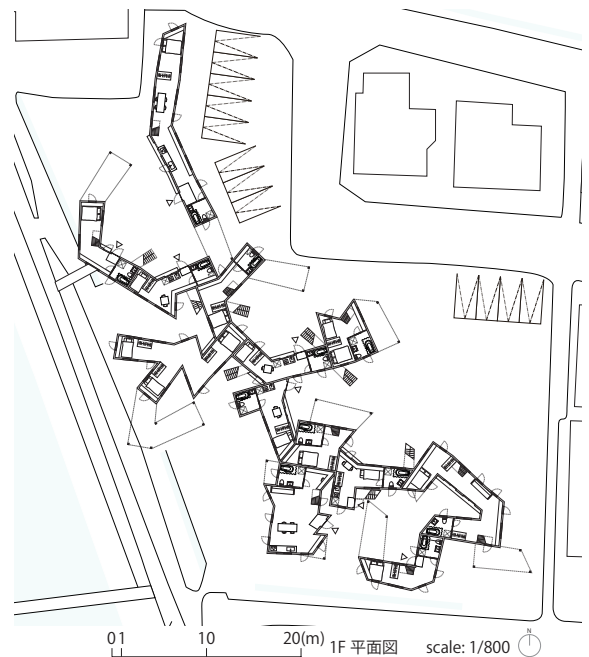


6. 主要図面

一見複雑な平面図は、単純なルールで
成り立っている。一つの図形の組み合わ
せからなる30個のユニットを、中庭を
囲むように繋げていく。互いに適度な距
離を取りながら繋がれたブロックは、奥
行きのある多様な内部空間を持っている。



01 10 20(m) 2F 平面図 scale: 1/800



01 10 20(m) 1F 平面図 scale: 1/800